

横浜市立南瀬谷小学校 学校評価報告書 (平成25年度～平成27年度)

共通取組 重点取組	平成25年度		
	具体的取組	自己評価結果	総括
1 確かな 学力	・重点研究として算教科を取り上げる。また、中学と共同研究を積極的に行って授業力の向上を図り、確かな学力の形成に結びつける。	・基礎・基本を大切に学習を心がけた。また、少人数学習やTTによる学習を行った。算教科の重点研究に取り組み、指導力、授業力の向上を図った。	A B C D
2 豊かな 心	・地域の方々との交流や体験活動を取り入れ、また道徳教育の充実とあいさつ運動の推進によって、人と関わり、自己を表現しようとする姿勢や「豊かな心」の育成に努める。	・あいさつ運動の推進は定着してきている。道徳教育の充実についても更に力を入れて取り組んだ。	A B C D
3 健やかな 体	・中休みに「体力アップタイム」を設けることで子どもたちの運動の習慣化を図る。 ・健康教育を推進し、子どもたちの健康な身体の育成を目指す。	・「体力アップ」の取り組みを年間を通して行った。	A B C D
4 特別支援 教育	・個別支援級と通常学級の交流を日常的に深め、ともに協力し合えるようにする。 ・各学級に在籍している支援を必要としている児童の支援体制を学校全体で考えていく。	・特別支援コーディネーターを中心に研修会を開き、個のニーズに応じた支援をする体制をつくった。 ・西部療育センターやスクールカウンセラーとも連絡を密にしている。	A B C D
5 児童生徒 指導	・あいさつ指導に重点を置き、児童がいつでも、どこでも進んで明るく挨拶ができるようにする。 ・年2回、個人面談を行い、保護者・児童と相談しやすい環境をつくる。	・地域・家庭訪問を4月に実施し、個人面談を年2回にした。その結果、子ども一人ひとりの理解を深め、保護者との連絡を密に取り合うことができた。	A B C D
6 地域連携	・学校だよりの配布やホームページで学校の情報を地域に発信する。 ・保護者や地域の方が授業を参観したり行事に参加したりする機会を生かし、開かれた学校を目指す。	学習ボランティア等で地域の方々が学校に関わり、また教職員も地域の行事に積極的に参加した。その結果、地域・家庭・学校がしっかりと連携がとれているとの声が聞かれた。	A B C D
7 人材育成 組織運営	・全職員が一丸となって、実践に生かせる校内研究・研修の機会をもつ。	・充実した研究・研修をすることができ、それを授業実践に生かすことができた。また、メンターチームを核として若手職員の育成を図った。	A B C D

小中一貫 教育推進 ブロック内 相互評価 結果	地域との連携を図りながら「あいさつ運動」に力を入れている様子が見られる。体力アップの取組も定着している。基礎学力の向上については、小中の連携を更に強めながら、その向上に着実に力を入れていくことが今後の課題である。小中の連携や交流は、合唱祭や地域交流学習会などの行事を通して年々深まってきている。今後も更に連携を強めていきたい。
学校関係者 評価結果	あいさつ運動は大切であり、しっかり取り組んでいるが、地域では適切な挨拶ができないことがある。人とのつながりの中での挨拶をめざしたい。学年に応じた指導も必要。地域全体の活性化にもつなげたい。また、学校が感じている地域の課題について、言いにくいことでも投げかけて一緒に考えていけるようにしたい。学校の評価は、教育委員会ではなく地域でやるべきではないか。
評価結果に 対する 学校の見解	・あいさつは、人と人との繋がりの中で、相手を敬う気持ちから自然に生まれるのだといくことを子ども達に学ばせていく。 ・基礎学力の向上と体力づくりの取組は継続して力をいれていく。小中の交流も更に力を入れ、連携を強めていく。

学校経営 中期目標 達成状況	・重点研究として算教科を取り上げ授業力の向上を図り「確かな学力」の向上に努めてきた。しかし十分な成果が表れたとは言えない。 ・あいさつ運動と体力アップの取組は、着実に成果は表れている。今後も更に継続して取り組んでいく。 ・「豊かな心」の育成の為に、道徳指導の充実にも力を入れる。
----------------------	---

共通取組 重点取組	平成26年度		
	具体的取組	自己評価結果	総括
1 確かな 学力	・基礎・基本を大切に授業展開に力を入れる。重点研究で培ったものを、他教科の指導にも生かす。	・算教科を重点研究に取り上げ、教員一人ひとりの授業力の向上を図った。わかる喜び、学び合う楽しさを児童が少しずつ実感できるようになってきた。今後も基礎・基本を大切に学習を心掛ける必要がある。	A B C D
2 豊かな 心	・継続してあいさつ運動に取り組み、道徳教育の充実も図っていく。	・地域の方々との交流や体験活動を取り入れ、また道徳教育の充実とあいさつ運動の推進によって、礼儀を大切にできる態度や自分の行動に責任をもつ姿勢が育った。	A B C D
3 健やかな 体	・「体力アップ」の充実を図り、一層の体力向上を目指す。	・毎週、体力アップの時間を設けて全校で取り組み、児童の体力の向上を図った。スポーツセンターの職員の方々の協力を得て、長縄跳びの運動を行い、協力できた。	A B C D
4 特別支援 教育	・ケース会議を充実させ、学校全体で支援する体制を更に整えていきたい。	・特別支援担当教諭と連絡を取り合っ、全職員で児童一人ひとりを見守る体制を作っている。より安心・安全な生活のために西部療育センター・スクールカウンセラーや警察など外部機関との連携を図ることができ、有効であった。	A B C D
5 児童生徒 指導	・次年度も継続して年2回の個人面談を行い、内容の充実を図る。	・年間を通じて、あいさつ推進やあいさつがんばりカードの取組を実施した。また、あいさつポスターを地域に掲示して、地域にも運動を広めた。個人面談を通して保護者との意思の疎通を深めることができた。	A B C D
6 地域連携	・今後もより良く地域に開かれた学校づくりを推進していく。	・学習ボランティア等で地域の方々が学校に関わり、また教職員も地域の行事に積極的に参加した。しかし、もっと、多くの方に参画していただけるような工夫も必要であった。	A B C D
7 人材育成 組織運営	・メンターチームの活動内容を充実させ、校内の若手教員の育成に力を入れていく。	・研修内容の個別の評価は高かったが、研修で得たことの報告・周知の機会があると良いという声も聞かれた。	A B C D

小中一貫 教育推進 ブロック内 相互評価 結果	あいさつ運動に継続して取り組んでおり、地域の方々とも進んであいさつをして、交流を深める様子が見られた。スキルアップタイムなど、基礎学力の向上のための取組も少しずつ定着しているが、不十分な部分もあり、今後も継続していく必要があると思われる。小中の連携では、地域交流学習会や合唱祭など行っているが、来年度もより充実した内容を考えて、連携を深めていきたい。
学校関係者 評価結果	まず、児童の安全と防災が最優先であり、安全管理・地域連携などについては運営協議会として学校に協力できる。また、学校の方で足りない部分、補助を必要とする部分があれば、一市民として積極的に援助していきたい。隣接している小中の位置関係にも恵まれているので、もっともっと新しい試みを進めていただきたい。
評価結果に 対する 学校の見解	地域との連携をさらに強め、安全管理の面でも運営の面においても一層の向上を図っていききたい。小中連携については、多くの反省点を生かして、さらに実りあるものにしていききたい。児童の基礎学力の定着の上に、幅広い学習活動を進めていきたい。

学校経営 中期目標 達成状況	・学力に課題のある子どもが比較的多い中、少しずつ基礎・基本の定着が見られてきた。しかし、「知識・技能を活用する学習活動」や「各教科における言語活動の充実」の不足が傾向として見られ、今後の課題である。 ・規範意識の向上をねらいとする、言葉遣いやあいさつ運動の成果はアンケート調査からうかがえる反面、十分にはできていないという声も少なくない。
----------------------	--

共通取組 重点取組	平成27年度		
	具体的取組	自己評価結果	総括
1 確かな 学力	・基礎・基本を大切に指導力の向上のために、「自己を生き生きと表現し、豊かなかかわりの中で学び合えるみなみの子」という本校のテーマの下、国語科を重点研究に取り上げる。	・重点研究に取り上げた国語の研究においては、児童が自ら進んで学習しようとする姿勢を目指してきた。また、中学年を中心に水曜日の放課後を利用して地域の方と教師で学力の向上を図ることができた。	A B C D
2 豊かな 心	・全学級道徳の授業を家庭・地域に年一回以上公開する。 ・道徳教育について、学校だより、学年だより等で家庭・地域に発信する。	・全学級道徳の授業を年一回以上、家庭・地域に公開した。また、中学校の道徳の授業に本校教師も参観した。 ・日常の挨拶がきちんとできるように指導し、進んで挨拶ができる子を育成した。	A B C D
3 健やかな 体	・「体力アップ」の充実を図り、児童の運動の習慣化を目指す。 ・食育の大切さを給食や教科との関連の中で学び、健康な身体の育成を目指す。	・体力アップの取組として体力づくりボランティアの方の協力をいただき、長なわなどを生き生きキッズとして活動した。また、中休みに校庭や体育館で体力づくりに取り組むことができた。	A B C D
4 特別支援 教育	・特別支援委員会の定例化を図る。 ・ケース会議を充実させ、学校全体で共通理解し、支援する体制を更に整える。	・支援が必要な児童に対して様々な支援を実施してきた。例えばコミュニケーションの苦手な子に対しては児童専任が中心となって、よりよい学校生活が送れるように努力した。全校を上げて児童理解に努め、その子に適した支援をした。	A B C D
5 児童生徒 指導	・継続してあいさつ推進指導に重点を置き、児童がいつでもどこでもすすんで明るくあいさつができるように指導する。	・豊かな心をもつ子の育成と関連づけてあいさつ運動を継続している。毎朝、校門に教師が立ち、挨拶の声かけをしている。その結果、自然に挨拶ができる児童が増えてきている。	A B C D
6 地域連携	・学校だよりの配布とホームページの更新によって、最新の学校の情報を家庭・地域に発信する。引き続き、地域に開かれた学校づくりを推進していく。	・学校ホームページを月一回のペースで更新し、地域へ学校の情報を公開している。また、年間8回の授業参観と個人面談・学級懇談会を通して児童の様子を保護者に知らせ、開かれた学校を目指し努力した。	A B C D
7 人材育成 組織運営	・メンターチームの活動内容を充実させ、校内の若手教員の育成に力を入れていく。	・今年度も研修内容の個別の評価は高かった。実施回数を増やして欲しいという要望が経営計画反省の際に出され、来年度はその方向で実施されることに決まった。	A B C D

小中一貫 教育推進 ブロック内 相互評価 結果	今年度は中学校との交流の場を多くもつことができた。6年生と中学生とが一緒に清掃活動をしたり食事をしたりするなどの地域交流を実施した。重点研究授業には中学校の教師全員が参観し、小学校からは道徳の授業を参観したことが成果の一つに数えられる。小中の児童および生徒指導専任だけでなく全ての教師が綿密に連絡を取り合い、児童生徒のより良い成長に向けて努力した。観の違いはやや感じるが、互いに協力して児童生徒の教育に関わっていききたい。
学校関係者 評価結果	学力についてはその地域性というものも関係しているかもしれないが、より効果的に学習成果を上げるために学校独自の取組を望みたい。あいさつ運動については、道徳的な意味合いと防犯上のそれとがあるが、子どもたちへは、なぜ挨拶をするのか、その意義を理解させることが大切なことと考える。また、大人が先ず率先して挨拶する姿勢を示すことも大切である。
評価結果に 対する 学校の見解	小中交流に関しては互いが同じような形で実施していくことが大切である。交流はしているけれど何のための交流かという根本のところを見直す必要もあるのではないだろうか。小学校では子どもの成長を6年間のスパンで見ているが、中学校側では5・6年生しか見えていないことも残念である。全ての取組についてきめ細かに意見を拾いながら有効な手立てを施すことが肝要であり、来年度はより具体的なアクションを起こす必要があると考えている。

学校経営 中期目標 達成状況	・今年度から重点研究として国語科を取り上げ、「豊かな言葉の力を身に付け自己を生き生きと表現するみなみの子」を主題設定し、授業研究に取り組んできた。その成果として児童は少しずつ学習の見通しを立てられるようになり、授業の中で友だち同士が交流しながら学習を進める姿や自分の言葉で表現しようとする姿が見られるようになった。 ・児童の体力づくりのためにボランティアの支援もいただきながら全校を挙げて取り組んできた。いくつもの取組が定着し、児童の運動の習慣化が感じられるようになった。
----------------------	---